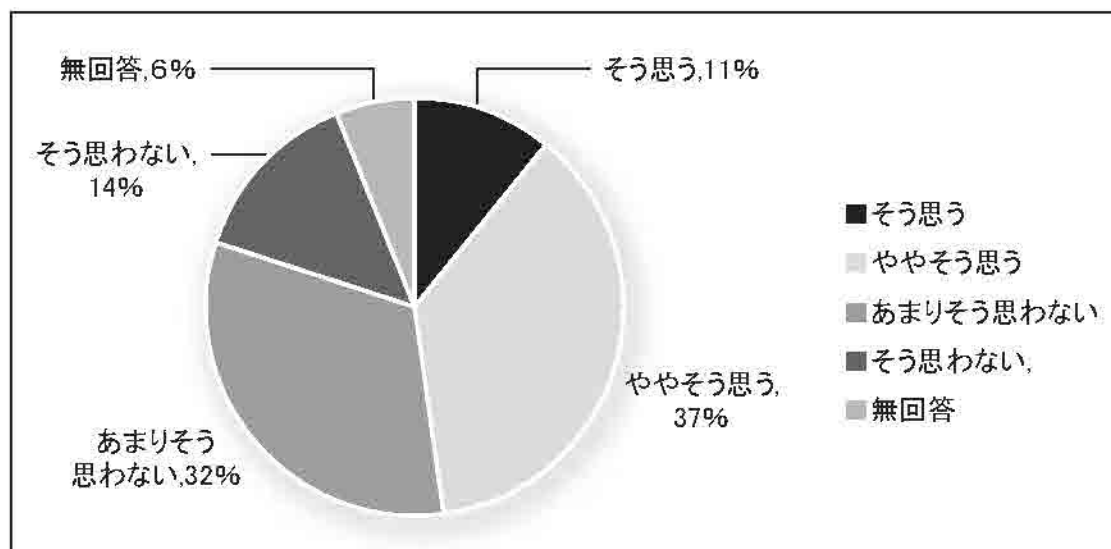


第 1 2 節 美化の推進

<現況>

平成 21 年度に実施した市民意識調査によると、「ごみのポイ捨てなどがなく、まちがきれい」という問いに対して、47.7%の人が“(やや)そう思う”という回答ですが、平成 11 年度の結果(51.6%)に比べて 3.9%低い結果になっています。

居住している地域の環境の快適性(ごみのポイ捨てがなくまちがきれいである)



1 都市美化の推進

(1) 空き地の適正管理の推進

本市では宅地開発が急速に進み、県内外から土地を求める人が増えています。これらの中には、空き地のまま放置されるものもあり、雑草が繁茂したり、これに伴い害虫が発生するなど、苦情が多く寄せられています。

市では、生活環境の保全と増進に関する条例第 93 条に基づき、現地状況を調査し、所有者に文書で除草を依頼するなど、適切な管理について指導を行っています。

○ 指導件数(箇所) 101 件⁽¹⁹⁾

雑草指導の件数

年度	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
箇所数	100	126	160	187	104	114	126	98	101	151	146	140	101

(注) 各年度とも旧志賀町分を含む。

指標[計画策定時];雑草指導件数 126 件/年[平成 21 年度](空き地の適正管理)

(2) 路上喫煙等の防止の推進

平成 21 年 7 月から「路上喫煙等の防止に関する条例」を施行し、市内全域における公共の屋外の路上等での喫煙を止めること、主要駅前や観光地の 9 地域で路上喫煙等禁止区域の指定を規定しています。

○ 人通りの多い駅周辺などで巡回による指導啓発、啓発広報宣伝車の運行を実施しました。⁽¹⁹⁾

2 市民運動の推進

(1) ノーポイ運動の推進

住民と市が一体となって、ごみのポイ捨てを防止し、美しいまちづくりのための美化活動を実施しています。

- ごみ減量と資源再利用推進会議との連携により、12月1日を中心にノーポイ運動街頭啓発と清掃を実施しました。参加者 4,079人⁽²⁰⁾

(2) 観光地クリーン作戦の推進

ポイ捨て防止と観光滋賀と湖都大津を目指し、地元観光協会・滋賀県との連携により、観光地の清掃を実施しています。

- 堅田地区で実施 参加者 11人⁽¹⁶⁾

第13節 環境教育の推進

1 市民ニーズを考慮した環境教育の推進

(1) 環境人育成事業（大津環境人を育む基本方針）

地球環境にまで拡大深刻化した環境問題に対して、持続可能な社会を次代に引き継ぐためには、「人と環境」の関係について深く認識し、自ら責任ある行動を実践できる人、いわゆる「環境人」の育成が不可欠であり、そのために総合的体系的に環境教育を展開するための方向性を示す方針が必要です。

この要請を受けて、平成20年1月に策定した「大津環境人を育む基本方針」では、環境へ負荷の少ない経済活動を進めながら持続的に発展することのできる社会をめざして、環境教育の推進のための基本的な方向を定めるものであり、日々の生活や仕事など、あらゆるライフステージで主体的に責任ある行動を実行していく「環境人の育成」を目指し、下記の取り組みの推進を企業、教育機関、市民団体等で組織された「大津環境学習活動実行委員会」と協力して、効果的効率的に展開していくことを本旨としています。⁽¹⁸⁾

◆基本的取り組み

- 1) 実施体制の整備
- 2) 自然体験型環境教育の推進
- 3) 教育プログラムの充実
- 4) 人材育成
- 5) 教育フィールドと拠点整備
- 6) 情報支援の充実

◆重点的取り組み

- 1) 親子・家族で参加する自然体験型環境教育の推進
- 2) 学校教育における環境教育の充実
～体験学習の実践力を身に付けた指導者育成～

○ “自然家族”事業の実施【重点事業】

子どもたちの自然体験の機会が減っているという調査結果を受け、就学前児童と小学生並びにその家族を対象とした自然体験型プログラム“自然家族”事業を実施しました。「大津環境学習活動実行委員会」の協力のもと、「里」の日、「びわ湖」の日、「山」の日、「びわ湖漁」の日の4種類6回と水辺の体験会の事業を実施しました。（参加総数 281人 累計延べ 5,271人）⁽¹⁹⁾

目標：自然家族事業累計延べ参加者数 11,000人



「びわ湖」の日



「山」の日

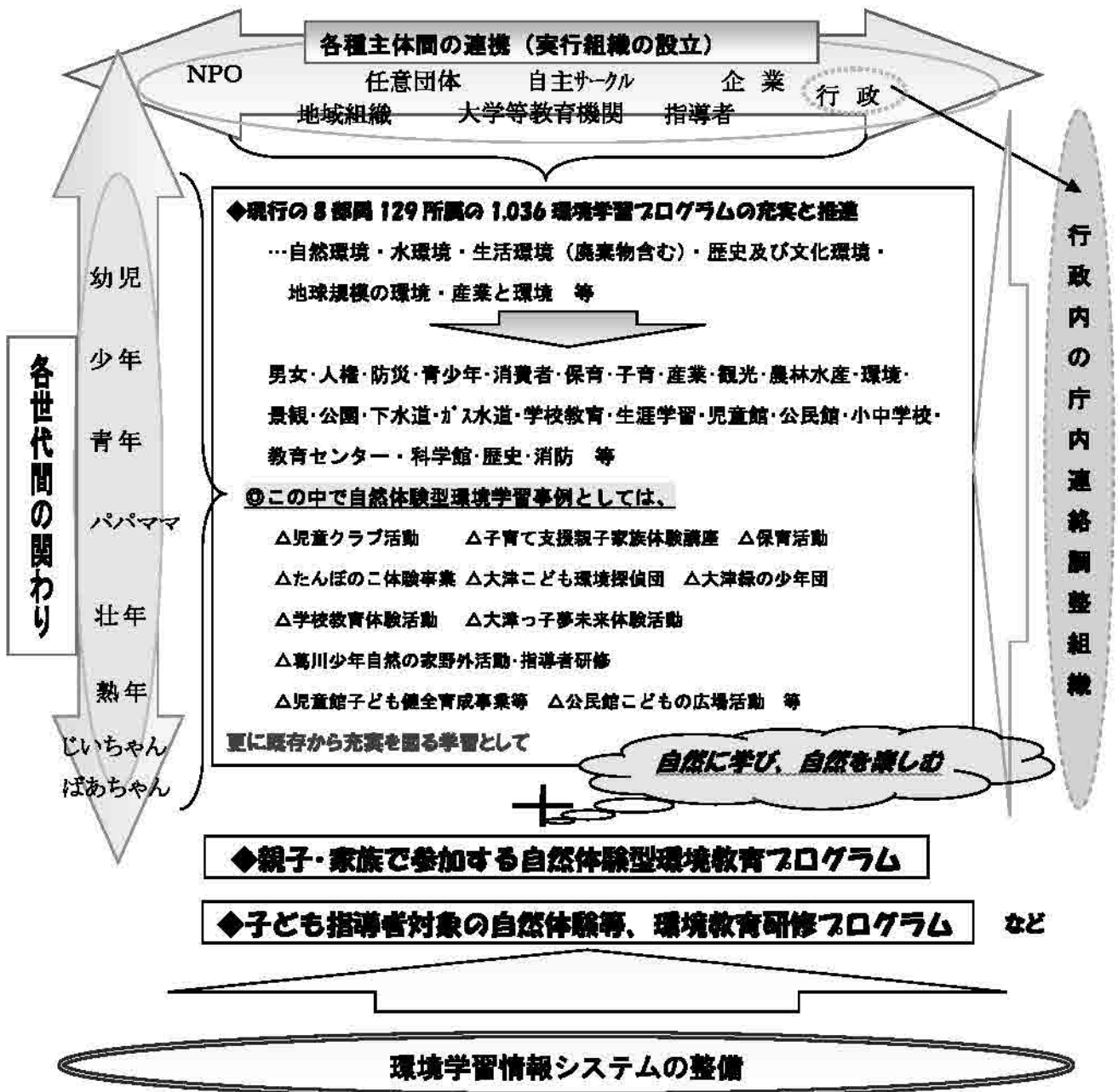
《展開イメージ》

■推進主体の関係



■事業推進のイメージ

世代間の連携と主体間の連携の網目構造でまち全体の環境人を育み合います！



(2) 環境学習サポーター制度の推進

自主的な環境保全活動を支援する人材や情報の提供のニーズに対して、環境保全に関して一定の知識や経験を有し、活動に関する指導・助言等の支援を行うことに賛同した方を登録し、必要に応じて紹介する「環境学習サポーター登録制度」を実施しています。

- 26人9団体を環境学習サポーターとして登録し、その情報等を冊子として作成し、公民館等に配布しました。⁽¹⁹⁾

指標[計画策定時]:環境学習サポーター登録数 64人

(3) 学習環境の整備

より多くの市民が日常生活の中で文化・芸術にふれる場の提供と、芸術・芸能を志す人たちが伸びやかに育つことができる環境を充実させていきます。また、文化施設、自然的・歴史的環境やまちなかのオープンスペース等における市民の芸術文化事業を支援していきます。

- 大津市美術展覧会や大津市写真展覧会の開催、花登壇文芸奨励賞の募集等を実施しました。⁽⁷⁾

(4) 公民館での学習機会の充実

公民館では、子どもから高齢者までを対象とした環境に関する学習会・自然観察・里山探検など、自然に親しみ、環境について学ぶ機会を提供しています。

- 水質調査、エコ工作、自然体験、ハイキングなど公民館活動の主な実施事業 延べ参加者数 2,171人⁽⁵¹⁾

(5) 淡海生涯カレッジ

滋賀県が平成7年度に国から委嘱を受けて滋賀大学と共同で開発した環境学習事業で、地域の公民館や高等学校、大学等の多様な学習機関と連携し、日常的な学習から大学等での高度な理論学習までを組み合わせた体系的な生涯学習システムで、大津校は平成8年度から開講しています。

- 計18回の講座を開催し、受講生は29名、修了者は26名でした。⁽⁵¹⁾

2 若年層を対象とした環境教育の推進

(1) 大津こども環境探偵団活動の推進

小学校3年生から中学校3年生までを対象に、平成2年度から実施しています。環境に配慮した生活・行動ができる「環境人」の育成を目的に、1年間を通じて自然環境・社会環境の環境全般について、総合的で系統的な体験をすることで環境に対する幅広い知識を体得できるプログラムを展開しています。

開催日	対象	内容
6月6日(土)	小・中学生	結団式
8月1日(土)~2日(日)	小・中学生	宿泊探偵
10月10日(土)	小・中学生	カヌー探偵
1月31日(日)	小・中学生	市民ヨシ刈り
2月20日(土)	小・中学生	ごみ探偵・修了式

また、平成11年度から支援を受けている探偵団のOBなどから構成されたサポーター組織については、平成18年8月に「大津こども環境探偵団エコリーダー」という名称で発足しています。

- 探偵団員 55人 延べ参加者数 276人⁽¹⁹⁾

(2) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、子どもが誰でも参加できる環境活動クラブで、環境省が「こどもエコクラブ」事業を通じて、地域における子どもたちの自主的な環境学習や実践活動を支援しています。本市では平成7年から「こどもエコクラブ」地方事務局として、地域・学校等で環境活動を行っている小・中学校グループ等の「エコクラブ」への登録・資料配布などの様々な活動支援を行っています。⁽¹⁹⁾

こどもエコクラブ登録団体(平成27年度)

クラブ名	クラブ 人数	サポーター	クラブ名	クラブ 人数	サポーター
イオン西大津チアーズクラブ	33	6	ちゃぶ・くま・みみ なかよしクラブ	3	2
山川ファミリー	4	1	逢坂小学校 自然科学クラブ	16	3
おやおや? 浜保クラブ	13	3	逢坂小学校 自然キラキラ委員会	13	3
瀬田北中学校 科学部	19	3	ぼてじゃこフロンパク塾	64	10
大津こども環境探偵団	55	39	しが Kids クラブ	6	5
ほねほねくらぶ	3	20	逢坂小学校 自然エコキララ委員会	13	2
ホテルの学校	25	13			
大津市子ども会ジュニアリーダークラブKIDS	27	15			
伊香立中学校 アクアリウム部	13	2	合 計	310	129
いずのエコファミリー	3	2			

(3) 農業体験による食育

子ども達に、農業への関心・生命や食べ物大切さを学んでもらうため、農業体験学習の場を提供しています。

- ステップアップ事業(環境学習、地産地消に関する学習)19 小学校実施⁽¹⁶⁾
- たんぼのこ体験事業(農業体験学習)37 小学校実施⁽¹⁶⁾

(4) 資源とごみ学習

- 若年時からごみ減量や資源化の大切さを知ることを中心に、小学校4年生の副読本として「くらしとごみ」を編集・作成しました。⁽²⁰⁾

(5) 保育園における環境学習

保育園では、各地域の自然環境を保育者自身が把握し、身近な動植物や自然と接する機会を持つ保育を実践しています。

- 園児だけでなく、保護者や地域の方にも参加いただいて自然体験活動に取り組むとともに、職員の環境教育への理解と実践を深めるべく研修会を実施しました。⁽¹¹⁾

(6) 児童クラブにおける環境学習

- 放課後児童の健全育成を目的とした児童クラブの活動のなかで、ごみの減量、美化の推進、身近な自然の保全等、環境にやさしい行動ができるよう日々の生活を通して伝えました。⁽¹⁰⁾

(7) 幼稚園における環境学習

- 幼稚園においては、子どもたちが身近な環境に自ら関わり、発見を楽しみ、考え、自分の生活に取り入れる等の活動を設定できるよう、その意義と重要性を年間計画に位置づけた環境教育を進めました。⁽¹¹⁾

(8) 学校教育における環境学習

小・中学校では、環境をキーワードとして、各教科及び道徳、特別活動などの授業の時間はもとより、学校教育全体を通して、環境に関わる学習を関連づけることで、多面的に環境問題を捉え、総合的に学習を進めました。

- 「環境美化の日」を中心に、ゴミゼロ運動、琵琶湖岸や通学路等の地域清掃や校舎周辺の落ち葉拾いと堆肥化等を通して環境教育の実践化を進めました。⁽⁵⁰⁾

(9) ふるさと体験学習・森林環境学習「やまのこ」

- 葛川少年自然の家では、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持った人間性の育成を図ることを目的に、小学校4年生及び中学校1年生を対象に「ふるさと体験学習事業」として、集団宿泊体験事業を実施しました。

また、森林をはじめとする環境に理解を深めるため、学校教育の一環として小学校4年生を対象に、森林環境学習「やまのこ」を実施しました。⁽⁵⁹⁾

(10) 葛川少年自然の家での研修事業

- 自然体験学習の中で、子どもたちの五感にはたらきかける活動を取り入れた「冒険塾・北風わんぱくキャンプ・ちっちゃい秋探検隊」などの研修事業を主催しました。⁽⁵⁹⁾

(11) 児童館における環境学習

児童館では、子ども達が地域の自然や文化に触れる機会を提供し、豊かな感性が育まれるよう、さまざまな場面で環境について意識したり、体験したりすることで豊かな感性が育まれるよう活動しました。

- 館内外の清掃活動や園芸活動などを通じて、環境について身近に触れる経験や機会を提供しました。⁽⁹⁾



ふるさと体験学習

3 環境教育の基盤及び拠点の整備

(1) 環境教育指導者の育成

- 環境教育を推進するためには、指導者となる人材の育成が不可欠なため、大津こども環境探偵団エコリーダー、保育士、児童クラブ指導員、児童館職員、幼・小・中学校教員などの子育てに関わる指導者を対象に、自然体験型環境学習の指導者研修会を開催しました。⁽¹⁹⁾

(2) 教員の指導者等の推進

- 各学校で作成した環境教育の全体計画や、各幼稚園で作成した年間推進計画をもとに、全教職員が自

校園の環境教育の推進について、共通理解を図りました。栽培計画や飼育活動のほか、清掃活動、教科学習における環境教育の進め方についても関連させ、計画を作成し研修を進めるとともに、子どもたちに魅力ある教材の開発のために、地域の自然等を調べるなどの調査研究を行いました。⁽⁵⁰⁾

- 幼・小・中学校教員の中から特に環境教育に関心を持つ教員の共同研究の場として、「環境教育部会」を設置し、全教職員を対象とした研修講座を開催しました。
- 初任者研修等の研修においても「環境学習」に関する研修を実施しました。⁽⁵⁶⁾

第14節 環境情報の整備と提供

1 環境情報の整備と提供

(1) 環境情報システムの整備・拡充

市民、事業者の環境づくり活動、環境配慮行動を支援するためにも適切に環境情報を整備、提供することが重要です。このため、環境に配慮できる大津環境人の育成を支援することを目的として、平成7年度から開発を始め、環境情報システム市民検討組織「Otsu 知ってる会」の協力を得て、平成8年7月1日に大津市環境情報システム「大津のかんきょう宝箱」として開設しました。

「大津のかんきょう宝箱」には、「環境宝さがし」の調査結果を基にしたまちの宝物情報をはじめ、「身近な環境調査員」による調査結果、琵琶湖や河川等の水質調査結果、統計資料など約3,000件の環境情報を盛り込み、これらの情報を写真や地図、音声、動画などの機能を使い、楽しくわかりやすい表現で提供してきました。

その後、ホームページによる情報提供システムへの移行及び情報交流の機能等を付加するなどの改良を行い、平成16年度より運用を開始し、さらにシステムの全面更新を平成24年度に実施して、環境学習事業の紹介、身近な環境情報の収集・提供を行っています。

さらには、平成20年7月には、子育て中の親子や家族がそろって自然を楽しめる自然体験型環境教育情報を紹介する「大津子ども環境人」ホームページを開設し、平成22年4月には、携帯サイトも運用しています。

○ ホームページ「大津のかんきょう宝箱」等の環境情報システムへのアクセス件数 317,389件/年⁽¹⁹⁾

指標[計画策定時]:環境情報システムアクセス件数 323,289件/年[平成20年度]

(2) 環境学習情報室の運営

平成18年4月、子どもから大人までを対象に環境情報を提供し環境学習を推進する拠点として、また事業所や市民の環境保全活動の交流拠点として、明日都浜大津4階に環境学習情報室(愛称:子どもエコ・ラボ)を設置しましたが、平成27年度末で、その機能を「大津市地球温暖化防止活動推進センター」に引継ぎ、環境学習情報室は廃止しました。

○ 年間利用回数 延べ686回、年間利用者数 延べ1,756名⁽¹⁹⁾

(3) (仮称)環境活動情報支援センター設立の推進

環境学習情報室の運営と活用内容を充実させるため、(仮称)環境活動情報支援センターの設立を目指しましたが、その機能を地球温暖化防止の啓発も含め、平成28年4月に指定した「大津市地球温暖化防止活動推進センター」に発展的に継承しました。⁽¹⁹⁾

目標:(仮称)環境活動情報支援センターの設立(1施設)